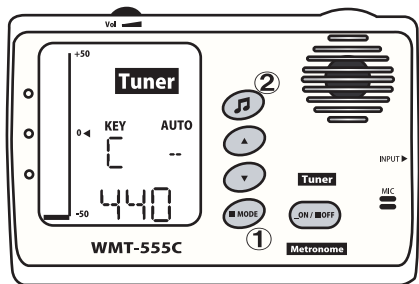


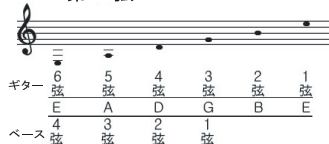
= WMT-555C の使い方 =

■ ギター及びベースのチューニングをする場合



ギター ベース

第 6 弦 → E ← 第 4 弦
 第 5 弦 → A ← 第 3 弦
 第 4 弦 → G ← 第 2 弦
 第 3 弦 → D ← 第 1 弦
 第 2 弦 → B
 第 1 弦 → E

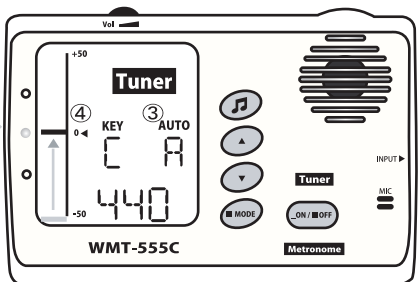


※ベースは1オクターブ下になります。

- エレキギター or ベースの場合は INPUT にケーブルで繋ぎ、楽器のボリュームが上がっているかをお確かめ下さい。アコースティックギターの場合は付属のチューナーマイクをギターのヘッド部分に挟むか、内蔵マイクを使ってチューニングします。(内蔵マイクを使用する際は、静かな場所で出来るだけギター本体にチューナーを近づけてチューニングして下さい)

- ①の「MODE」ボタンを使って、KEY の表示を「C」にします。
- ②の音符マークのボタンを押すと、A440Hz の音が鳴ります。この音はギターの 5 弦、ベースの 3 弦をチューニングした際の音より 1 オクターブ高い音です。全く同じ音にチューニングしようとすると、弦を切る恐れがあります。

【ギターの 5 弦 or ベースの 3 弦のチューニング】



- ギターの 5 弦、もしくはベースの 3 弦を弾いた際、③の AUTO の表記が「A」、④のメーターが真ん中で停滞し、緑色のランプが点灯するようにします。上の赤いランプが点灯している場合は、AUTO に表示されているキーより高い音ということになりますので、弦を緩めます。逆に下の赤いランプが点灯した場合は、低い音になりますので、弦を巻きます。

同じ要領で他の弦もチューニングをします。

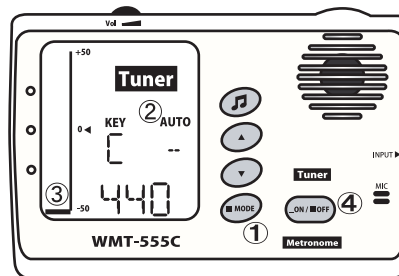
■ 木管楽器、金管楽器チューニングをする場合



木管楽器、金管楽器にチューニングマイクを取り付ける

- 木管楽器及び金管楽器のチューニングを行う場合、お手持ちの楽器によって調子が異なりますので、予め KEY を合わせてからチューニングします。このチューナーは C、F、B \flat 、E \flat に対応しています。

- チューニングマイクを楽器に取り付けます。
- ①の「MODE」ボタンでお手持ちの楽器の調子に KEY を合わせます。
- 吹いたキイが②の「AUTO」に表示されます。ギター同様③のメーターが真ん中で停滞し、緑色のランプが付けばチューニング完了です。



※反応が鈍い場合は、チューニングマイクの取り付け位置を動かす、または変えて下さい。

- ④のボタンを短く押すことで、「AUTO」に表示されるキーの #、 \flat を変えることができます。

トラブルシューティング

・チューナーの反応がない、または鈍い



- ケーブルがしっかり繋がっているかお確かめ下さい。
- 楽器本体のボリュームが下がっていませんか。
- チューニングキーから音がずれすぎていませんか。(ある程度チューニングするキーに音を近づけないと、チューナーが反応しません。)

・液晶の表示がちゃんと映らない



- 電源を入れなおす、又は電池を入れなおしてください。
- 液晶の表示が薄い場合は、電池交換を行ってください。